PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

05-000517

(43)Date of publication of application: 08.01.1993

(51)Int.CI.

B41J 2/18 B41J 2/185

(21)Application number: 03-151615

(71)Applicant: SEIKO EPSON CORP

(22)Date of filing:

24.06.1991

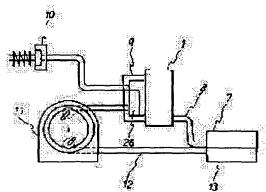
(72)Inventor: MIYAZAWA YOSHIO

(54) INK JET PRINTER

(57)Abstract:

PURPOSE: To discharge a bubble in a head while preventing the deterioration of a printing quality and the overconsumption of ink by a method wherein just after air in a cap is temporarily released through an air open valve at the time of cleaning, the air open valve is again closed, and ink is sucked.

CONSTITUTION: Cleaning is conducted by discharging foreign particles and bubbles through a cap 9 together with ink using a negative pressure generated by an ink suction pump 11. At this time, bubbles adhering inside the head 1 are hard to discharge even by the sucking force of the ink suction pump 11. Therefore, an air open valve 10 is opened during the sucking action, whereby air in the cap 9 is released. In this manner, the adhering bubbles are sucked reversely to suspend in the ink. After that, the air open valve 10 is again closed, and the ink is sucked. All the bubbles are discharged into an ink discharge tank 13 through an ink discharge tube 12. Then, air in the cap 9 is released by opening the air open valve 10, and a cleaning action is completed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

24.06.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3052432

[Date of registration]

07.04.2000

[Number of appeal against examiner's decision of

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許广(JP) (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-517

(43)公開日 平成5年(1993)1月8日

技術表示箇所 識別記号 庁内整理番号 FΙ (51)Int.Cl.5 B 4 1 J 2/18 2/185 102 R B 4 1 J 3/04 8703-2C

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

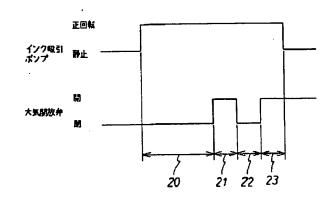
(71)出願人 000002369 特願平3-151615 (21)出願番号 セイコーエブソン株式会社 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号 平成3年(1991)6月24日 (22)出願日 (72)発明者 宮澤 芳雄 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコ ーェブソン株式会社内 (74)代理人 弁理士 鈴木 喜三郎 (外1名)

(54)【発明の名称】 インクジエットプリンタ

(57)【要約】

【目的】 クリーニング時においてキャップ内を一回、 または複数回大気開放することにより、ヘッド内に付着 した気泡を浮遊させて排出することを可能とする。

【構成】 1) 大気開放弁が閉、インク吸引ポンプが正 回転でヘッド内の気泡がインクとともに吸引される。 2) ヘッド内に付着していない気泡が排出し、残留気泡 が抜けきらない時間20後において大気開放弁が時間2 1の間、開となり、このとき負圧だったヘッド内の圧力 がノズル側からインク供給タンク側へから大気圧とな り、ヘッド内の壁に付着していた残留気泡が、ノズル側 からインク供給タンク側の方向へ引っ張られて浮遊す る。3) 再び大気開放弁が時間22の間、閉となり残留 気泡はインクとともに全て吸引される。



2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ノズルよりインク滴を吐出して記録を行なうヘッドと、前記ノズルに密着するキャップと、密着状態の該キャップ内を大気解放するための大気開放弁と、前記ノズルより前記キャップを通してインクを吸引するインク吸引ポンプとによりクリーニングを行なうインクジェットプリンタにおいて、クリーニング時に前記キャップ内を前記大気開放弁により一時的に大気開放し、直後再び前記大気開放弁を閉鎖して、インク吸引することを特徴とするインクジェットプリンタ。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、インクジェットプリン タのクリーニング機構に関するものである。

[0002]

【従来の技術】インクジェットプリンタにおいてインク 滴を吐出して記録を行うためには、インクを連続的に供 給しなければならないが、例えば長時間の印字停止した 場合、インクを再充填した場合は、ヘッド内に気泡が付 着することにより、インク吐出不安定または吐出不能を 20 招くなどの問題点が指摘されている。

【0003】このインク供給時にヘッドに入り込んだ気 泡はクリーニングですべて排出し、インクを均一に充填 するため、インクの表面張力を小さくしたり、ヘッド内 のインクとの接液面の表面処理を施すなどで、インクに 対する濡れ性(親インク性)を上げ気泡が付着しにくく することと、吸引圧力を大きくしたり吸引時間を長くす ることで付着した気泡を排出しやすくことが行なわれて いる。

【0004】しかしインクの表面張力を下げることは印 30 字品質を悪くすることにつながり、表面処理は生産性や耐久性に問題があり、また吸引圧力や吸引時間を大きくすることはインクの過大消費につながる等の問題もある。

【0005】図6は従来のインクジェットプリンタの実施例におけるクリーニング時のインク吸引ポンプの作動時間、及び大気開放弁の開閉時間を示すものである。大気開放弁を持つクリーニング機構において、大気開放弁が閉、インク吸引ポンプが正回転すると、キャップ内が密閉されて、インク吸引ポンプの発生する負圧によりへ40ッド内の気泡がインクと共に吸引される。そしてインク供給チューブとヘッド内の気泡がすべて排出されるまでの時間24の間インク吸引を継続し、その後大気開放弁が開となり、キャップ内が大気開放されて、時間25後にインク吸引ポンプが静止してクリーニングが終了する。

[0006]

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、印字 品質を悪化させたり、インクの過大消費をすることな く、ヘッド内の気泡を排出することにある。 [0007]

【課題を解決するための手段】本発明のインクジェットプリンタは、ノズルよりインク滴を吐出して記録を行なうへッドと、前記ノズルに密着するキャップと、密着状態の該キャップ内を大気解放するための大気開放弁と、前記ノズルより前記キャップを通してインクを吸引するインク吸引ポンプとによりクリーニングを行なうインクジェットプリンタにおいて、クリーニング時に前記キャップ内を前記大気開放弁により一時的に大気開放し、直後再び前記大気開放弁を閉鎖して、インク吸引することを特徴とする。

[0008]

【実施例】図1はインクジェットプリンタのクリーニング機構の構成の第1の実施例を示すものである。ヘッド1はキャリッジ2に搭載され、ガイド軸3、3に案内されて印字方向に摺動し、プラテン4とプラテン軸5により送られてきた印字用紙6にインク滴を飛ばして印字する。インクはインク供給タンク7よりインク供給チューブ8を通してヘッド1に供給されるが、ヘッド1にごみが付着した場合、またインクを使い切りインク供給タンク7を再充填したり、長時間の印字休止中にヘッド1内のインクが蒸発したりしてヘッド1内に気泡が入った場合、印字が不安定になるため、クリーニングが必要となる。

【0009】この場合のクリーニングとは、キャップ9がヘッド1に密着し、大気開放弁10を閉じることによって、キャップ9内が大気と遮断され、インク吸引ポンプ11が発生する負圧により、ヘッド1内よりキャップ9を通して、ごみや気泡をインクと共に排出することである。

【0010】ヘッド1内に付着した気泡はインク吸引ポンプ11によって吸引し続けても、付着したままで排出されにくいため、吸引途中に大気開放弁10を開放しキャップ9内を大気開放する。これにより付着した気泡は逆方向へ引かれてインク中に浮遊する。

【0011】その後再び大気開放弁10を閉じてインク吸引を行い、気泡をすべてインク排出チューブ12を通してインク排出タンク13に排出する。その直後はキャップ9内は負圧となっているため、大気開放弁10を開いてキャップ9内を大気開放した後、キャップ9をヘッドより離してクリーニングを終了する。

【0012】図2はインクジェットプリンタのクリーニング機構の構成の第1の実施例の詳細を示すものである。キャップ9内のインク吸収材26は、給水性に富むスポンジなどの材質であり、ヘッド1内からのインクを染み込ませてインク吸引ポンプ11で吸引し、キュップ9がヘッド1より離れた時にキャップ外にインクを垂れ流さないためのものである。

【0013】図3はインクジェットプリンタのクリーニング機構の構成の第2の実施例の詳細を示すものであ

3

る。大気開放弁10をヘッド1内に持つ構造により、キャップ9内の密閉と大気開放を行う。図4は、ヘッド1の実施例の断面図を示す。インクはインク供給タンク7よりインク供給チューブ8を通ってヘッド1内に入り、共通インク室14より各供給溝15を通ってインク圧力室16にはいる。ここで圧力を印加されてノズル17より吐出する。供給溝15とインク圧力室16との段差部18は、インク圧力室16に圧力が印加されたとき、インクをノズル17より吐出し、共通インク室14へ逆流させないために、共通溝15の断面積を小さくする必要「0において設けられたものである。

【0014】従来よりヘッド1の構成材料には、各種樹脂、各種金属、ガラス等が利用されているが、本発明においては寸方精度、生産性を考慮し、感光性樹脂を用いた。ヘッド1内のインク流路はこの感光性樹脂をフォト工程を経て加工されるが、段差部18を段差の無い滑らかな流路を作ることは成型上不可能である。

【0015】インク供給タンク13を再充填した場合等に発生する気泡は、インク吸引時にインクと共に共通インク室14より供給溝15を通ってインク圧力室16に20はいるが、段差部18やインク圧力室16壁等に付着することが多い。そして一度付着した残留気泡19はインク吸引し続けても、付着したままで排出されにくいことが問題となっていた。しかし吸引を停止させると、残留気泡19はノズル17とは逆方向に引っ張られ、壁よりはなれてインク圧力室16内のインク中に浮遊するため、再度インク吸引を行うとノズル17より排出される。

【0016】図5は第1の実施例におけるクリーニング 時のインク吸引ポンプ11の作動時間及び、大気開放弁 30 10の開閉時間を示すものである。

【0017】1)大気開放弁10を持つクリーニング機構において、大気開放弁10が閉、インク吸引ポンプ11が正回転でヘッド1内の気泡がインクとともに吸引される。

【0018】2)ヘッド1内に付着していない気泡が排出し、残留気泡19が抜けきらない時間20後において大気開放弁10が時間21の間開となり、このとき負圧だったヘッド内の圧力がノズル側からインク供給タンク側へから大気圧となり、ヘッド内の壁に付着していた残40留気泡19が、ノズル17側からインク供給タンク7側の方向へ引っ張られて浮遊する。

【0019】3)再び大気開放弁10が時間22の間閉となり残留気泡19はインクとともに全て吸引される。 【0020】4)最後に大気開放弁10が開となり、時間23後にインク吸引ポンプ11が静止してクリーニングが終了する。

【0021】クリーニング時のインク吸引ポンプ11の 作動時間及び、大気開放弁10の開閉時間はインク吸引 ポンプ11圧力等より評価を行った。時間20はインク 50 4

供給チューブ12の先端から混入した気泡が、吸引されてノズル17から排出されるまでの時間であり、時間21はキャップ9内を一瞬だけ大気開放すればよい時間であり、また時間22はヘッド1内に浮遊した残留気泡19を吸引するだけの時間であり、これらのためのインク吸引時間は従来例によるインク吸引時間24(図6)に比べ短いことを確認した。また吸引圧力もより小さくすみ、インク供給ポンプ11の小型化と少ないインク消費量も可能となった。さらにインクの表面張力を小さくしたり、ヘッド1内のインクとの接液面の表面処理を施す必要がないため、印字品質や生産性、耐久性の問題も克服できた。

[0022]

【発明の効果】以上に説明したように本発明のインクジェットプリンタは、ヘッドクリーニング時に、吸引によってヘッド内に発生する負圧をキャップ内を大気開放して急激に取り除くことにより、ヘッド内の壁に付着していた残留気泡が逆方向に引っ張られて浮遊する。その後再度吸引することにより、壁に付着し続けようとする気泡を素早く排出することができる。

【0023】この結果、気泡排出性を上げるためのヘッド内の表面処理を施す必要がなく、また表面張力の大きく印字品質はよいが気泡排出性の悪いインクが使用可能となる。さらに気泡排出のためインク吸引ポンプの性能を上げて吸引圧力を上げたり、インク吸引時間を多くする必要がなくなり、クリーニングによるインク消費量を少ないものにできた。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるインクジェットプリンタのクリーニング機構の構成の第1の実施例を示した説明図である。

【図2】本発明によるインクジェットプリンタのクリーニング機構の構成の第1の実施例の詳細を示した説明図である。

【図3】本発明によるインクジェットプリンタのクリーニング機構の構成の第2の実施例の詳細を示した説明図である。

【図4】本発明によるヘッドの実施例の断面を示した説明図である。

【図5】本発明の実施例におけるクリーニング時の吸引 ポンプの作動時間及び、大気開放バルブの開閉時間を示 した説明図である。

【図6】従来のインクジェットプリンタにおけるクリーニング時のインク吸引ポンプの作動時間および大気開放弁の開閉時間を示す説明図。

【符号の説明】

- 1 ヘッド
- 2 キャリッジ
- 3 キャリッジガイド軸
- 4 プラテン

プラテン軸 5

6 印字用紙

インク供給タンク 7

インク供給チューブ 8

キャップ 9

10 大気開放弁

11 インク吸引ポンプ

12 インク排出チューブ

13 インク排出タンク

*14 共通インク室

15 供給溝

16 インク圧力室

17 ノズル

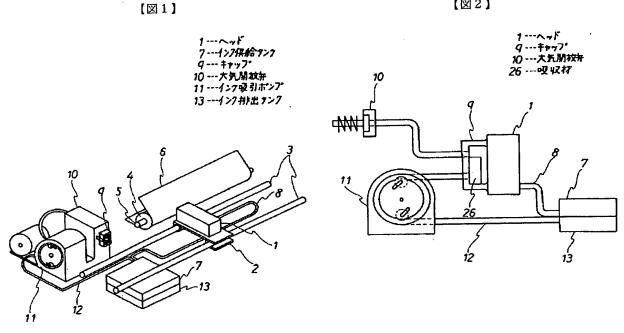
18 段差

19 残留気泡

20~25 時間

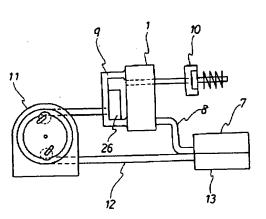
26 インク吸収材

【図2】



[図3]

1--- NWF 10 --- 大九尉狡异



[図4]

17---ノズリレ

19--- 気泡

